

令和 5（2023）年度ユネスコスクール活動調査の結果（概要）

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）では、文部科学省から委託を受け、ユネスコスクールと ESD（持続可能な開発のための教育）の推進を目的として、ユネスコスクール活動調査を毎年おこなっています。この度、令和 5（2023）年度の調査結果を取りまとめましたので公表します。

1. 調査結果から見る主な成果

① ユネスコが推奨している学校間交流について（図 7、図 9、図 11）

図 9 において、「海外の学校と交流した」と回答した学校が 32.9%（前年度比 8.7%増）となった。その背景には、図 7 において「英語でのやり取り可能な環境が整っている」と回答した学校が 51.9%（前年度比 6.9%増）となっていることや、事務局が海外交流のマッチング支援を行う機会が前年度より増加していることが考えられる。今後も学校のニーズを汲みながら事務局のサポートを続けていくことが必要である。

また図 11 からは、学校間交流で実施した交流活動方法として「生徒・児童往来」の回答が 58.9%と大きく伸び（前年度：国内交流 38.4%、海外交流 9.1%）、コロナ禍前の数字（平成 31（2019）年度：国内交流 64%、海外交流 48%）に戻りつつあることが読み取れる。この理由として、コロナの収束により対面での交流が可能となったことが大きく影響していると考えられる。

※ 図 11 について、前年度までは国内交流と海外交流とを別設問としていたが、令和 5 年度から質問形式を変更した。

② SDGs の 17 の各目標に対する取組について（図 31）

SDGs の 17 の目標のうち、教育活動に取り入れた特に関連する目標上位 5 つは下記の通りである。世界情勢のためか、目標 16（平和）が前年度よりも上位に入った（前年度は目標 4（教育）と同率 4 位）。各校で SDGs の 17 の各目標に対する取組が進められている。

- ・ 目標 11（持続可能な都市）—61.3%
- ・ 目標 16（平和）—29.3%
- ・ 目標 12（持続可能な生産と消費）—28.0%
- ・ 目標 3（保健）—27.8%
- ・ 目標 4（教育）—27.4%

③ ESD を実践したことによる教員の主な変化について（図 32、図 33）

ユネスコスクールへ加盟後、ESD を実践したことによる教員の主な変化（上位 3 つ）は下記の通りである。ここ数年、教科横断型のカリキュラム実践やホールスクールアプローチの回答割合が高いまま推移している。

｜カリキュラム・教授法の変化

- ・ 教科領域を超えて横断的に取り組むなどカリキュラムマネジメントを工夫するようになった—58.3%

- ・ 児童・生徒自らが問題意識をもち課題を発見できるようなカリキュラムを開発するようになった—57.5%
- ・ 持続可能性に関する価値観をもとに授業等を見直す機会をもたらした—49.4%

| 学校運営の変化

- ・ 学校全体で ESD に取り組む機運が高まった—53.8%
- ・ 教員が積極的に地域の方々と交流し、双方の信頼関係が深まった—46.2%
- ・ ユネスコスクールの活動を継続的に実施できるような仕組みづくりをするようになった—37.6%

2. 調査結果から見る主な課題

① 国際デーについて（図 23）

ユネスコスクールは、国際連合が定める「国際デー」を記念する活動を毎年少なくとも2回は実施することを求められているが、「行っていない」との回答が84.6%に上った。前年度同様オンライン意見交換会にて「国際デー」を取り上げる等、具体的な実践と共に学校へ周知する必要がある。

※ 本設問は、定期レビュー等において「国際デー」を記念する活動の実施が課題として挙げられていたため、令和5年度より新設した。

② ユネスコスクール活動支援の活用について（図 34、図 37）

ユネスコスクール事務局の利用状況について「特になし」の回答が40.2%、同様に ASPUnivNet からの協力や支援について「特になし」の回答が76.1%となっており、ここ数年高止まりしている。ユネスコスクール全国大会や定期レビュー等で支援メニューを明示化し、広く周知する必要がある。また、事務局および ASPUnivNet と学校との連携強化も求められる。

3. 調査の概要

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）が文部科学省の受託調査として令和5（2023）年12月11日～令和6（2024）年3月31日に実施。調査内容は令和5（2023）年度の学校の取組（令和4（2022）年12月～令和5（2023）年11月）を対象としている。国内のすべてのユネスコスクール加盟校に対してウェブによる回答協力を依頼し、468校（回答率約43.0%）から回答を得た。

（調査実施元）

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-32-7F 出版クラブビル

TEL:03-5577-2852 FAX:03-5577-2854

E-mail:webmaster@accu.or.jp

ユネスコスクール公式ウェブサイト:<https://www.unesco-school.mext.go.jp/>

令和5(2023)年度 文部科学省委託 ユネスコ未来共創プラットフォーム事業

令和5(2023)年度 ユネスコスクール年次活動調査結果

目次

令和5(2023)年度ユネスコスクール年次活動調査に関して	1
令和5(2023)年度ユネスコスクール年次活動調査 結果	1
調査方法	1
今年度の活動についての調査	2
ユネスコスクールの位置付けについて	2
国内外の学校間交流について	6
学校以外の団体との協働について	10
ESD の推進拠点としての活動成果の発信	14
ユネスコスクールとしての活動の成果	15
ユネスコスクールに求められる活動	15
ESD と SDGs の関係に関する認知度	16
ユネスコスクールとしての活動による変化	17
ユネスコスクール支援の利用状況	23

<図表目次>

図 1 担当者設置の有無	2	図 13 国内外のユネスコスクールとの交流	8
図 2 ユネスコスクール担当者の役職	2	図 14 海外交流校の国、地域名	8
図 3 ユネスコスクール担当者の年齢層	3	図 15 交流しなかった理由	9
図 4 学校全体で組織的・継続的に取り組むための工夫	3	図 16 学校以外の団体との連携の有無	10
図 5 学校規模(幼児児童生徒数)	4	図 17 連携先の団体	11
図 6 学校規模(教職員数)	4	図 18 学校以外の団体との連携内容	12
図 7 外国語での情報発信、交流の環境整備状況	5	図 19 校外におけるESD・ユネスコ活動に関する研修への参加の有無	13
図 8 ユネスコスクールの活動にかかる費用の捻出方法	5	図 20 ユネスコスクールに係る教育活動の実践等の発信、理念の普及	14
図 9 国内外の学校との交流(ユネスコスクールに限定しない)	6	図 21 成果の発信・普及方法	14
図 10 学校間交流を実施するようになったきっかけ	6	図 22 ユネスコスクールが重点的に取り組む3つの分野のうち、特に活動 成果のあるもの	15
図 11 学校間交流で実施した交流活動方法	6	図 23 国際デーを取り上げた学校行事	15
図 12 学校間交流で実施した交流活動のテーマ	7		

図 24 「ESD:SDGs 達成に向けて(ESD for 2030)」の認知度.....	16
図 25 SDGs 目標 4(教育)ターゲット 4.7 の認知度	16
図 26 ユネスコスクールにおける教育活動を通した育みたい資質・能力の明確化	17
図 27 ユネスコスクールとして身に付いた資質・能力を捉えるための評価	18
図 28 ユネスコスクールにおける教育活動を評価するための評価方法.....	18
図 29 最も変化の見られた「資質・能力の三つの柱」.....	18
図 30 最も変化の見られた持続可能な社会づくりを構成する 6 つの視点	19
図 31 ユネスコスクールの教育活動で取り上げた SDGs17 の目標	20
図 32 ユネスコスクールの教育活動による教員のカリキュラム・教授法の変化	21
図 33 ユネスコスクールの教育活動による教員の学校運営の変化	21
図 34 ユネスコスクール事務局の利用状況	23

図 35 ユネスコスクール公式ウェブサイトの利用状況	24
図 36 ユネスコスクール公式ウェブサイト機能の利用状況	25
図 37 ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUivNet)からの協力・支援 内容.....	25
表 1 ユネスコスクールの活動にかかる費用助成団体.....	5
表 2 学校間交流の主な成果	7
表 3 学校間交流の主な課題	7
表 4 学校間交流に関する情報収集先.....	8
表 5 学校間交流に関する支援団体/ネットワーク.....	8
表 6 外部団体と交流することになった主なきっかけ	12
表 7 外部団体と交流したことによる主な成果.....	12
表 8 外部団体と交流したことによる主な課題	13
表 9 研修会を主催していた主な団体.....	13

表 10 学校行事で取り上げた国際デー	15
---------------------------	----

表 11 ユネスコスクール活動を通して身についた主な資質・能力	17
---------------------------------------	----

表 12 児童生徒の変化を促した主なきっかけ	19
------------------------------	----

表 13 教職員の変化を促した主なきっかけ	22
-----------------------------	----

表 14 教職員の活動意欲が向上した主な取り組み	22
--------------------------------	----

表 15 ユネスコスクール事務局に求める支援内容	24
--------------------------------	----

表 16 ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet)からのその他の 支援	26
---	----

令和5(2023)年度ユネスコスクール年次活動調査に関して

令和5(2023)年度のユネスコスクール活動調査(以下「活動調査」という)は、文部科学省から委託を受け、ユネスコスクール事務局である公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)によって令和5(2023)年12月11日～令和6(2024)年3月31日の間に行われたものである。

この活動調査は、今後のユネスコスクールの活動の一層の振興に向けて、ユネスコスクールの現状、課題、成果等を把握することを目的に実施したものである。調査内容は令和5(2023)年度の学校の取組(令和4(2022)年12月～令和5(2023)年11月)を対象としている。

本報告書内の記述回答に関する分析は、簡易的な記述統計から浮かび上がる論点について整理したものであり、厳密な統計分析作業を経て導かれたものではない。なお、複数回答可の設問では、数値の合計は100%を超える場合がある。

令和5(2023)年度ユネスコスクール年次活動調査 結果

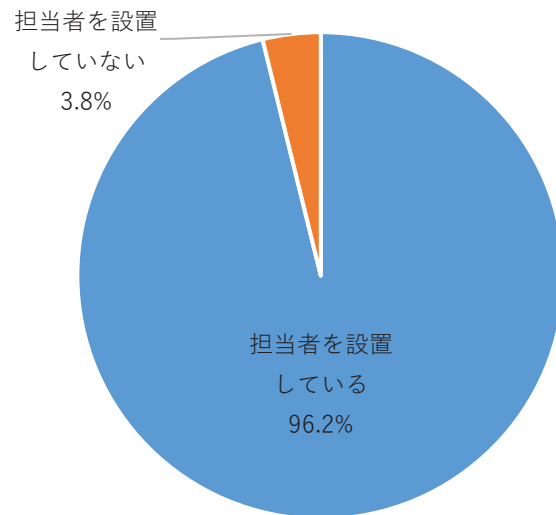
調査方法

令和5(2023)年度活動調査は、全ユネスコスクール加盟校1,090校に対してウェブ回答によって回答協力を募った。最終的には468校(回答率約43.0%)から回答を得ることができた(前年度より13.0%減↓)。活動調査の依頼方法は、公式ウェブサイトへの掲示、全加盟校へメールにて周知をおこなった。

今年度の活動についての調査

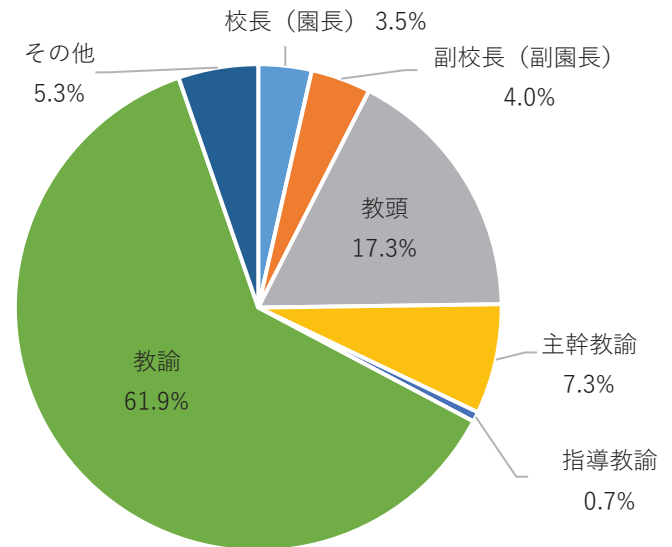
ユネスコスクールの位置付けについて

図 1 担当者設置の有無



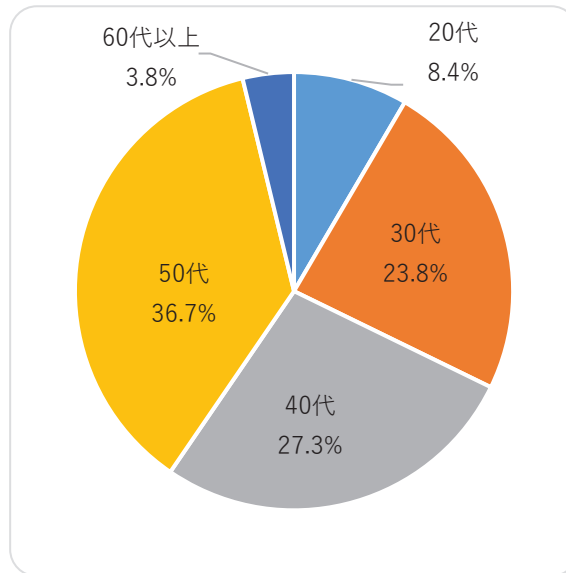
(参照:1. ① 質問 1)[N=468]

図 2 ユネスコスクール担当者の役職



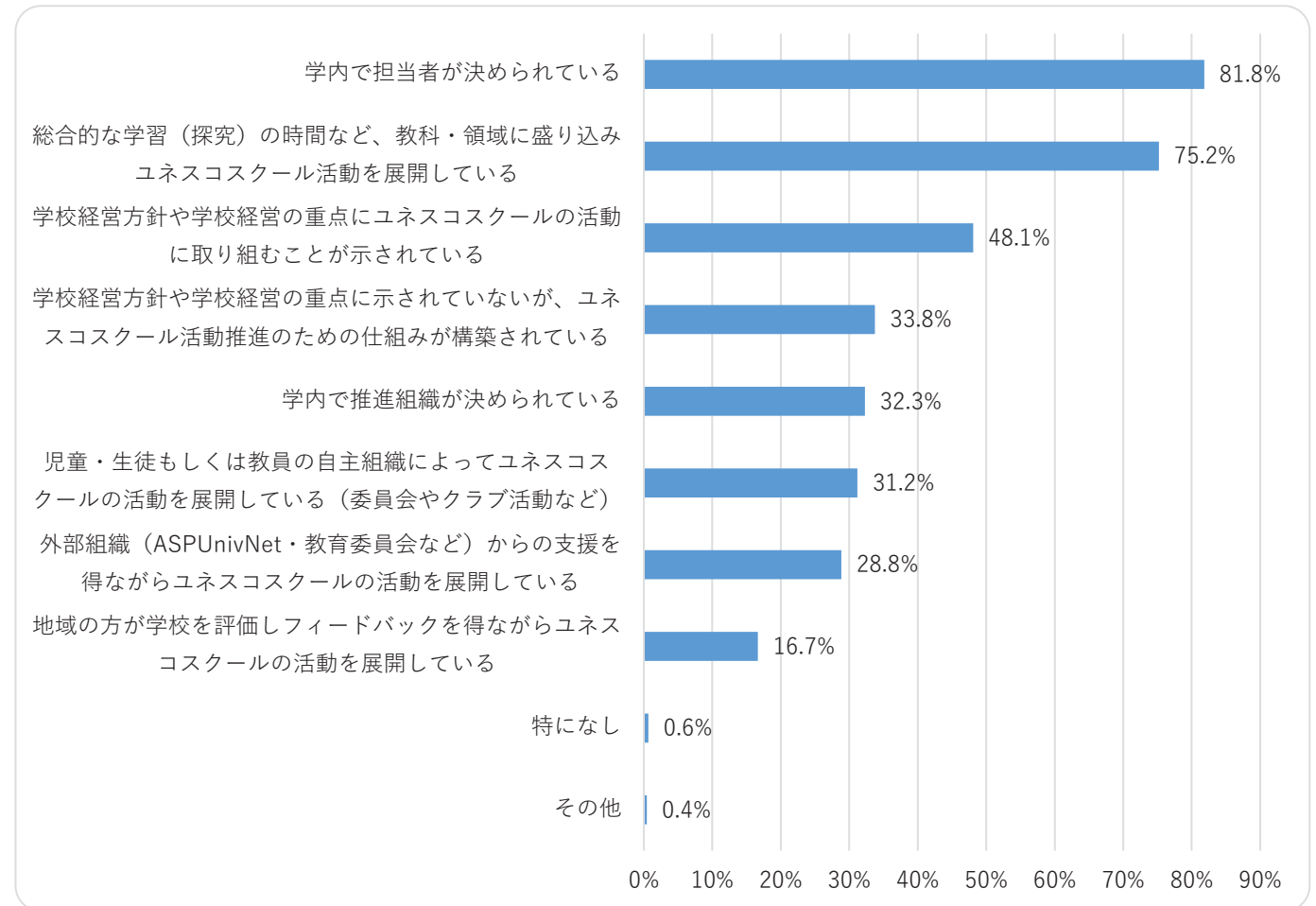
(参照:1. ① 質問 2)[N=452]

図 3 ユネスコスクール担当者の年齢層



(参照:1. ① 質問 3)(N=450)

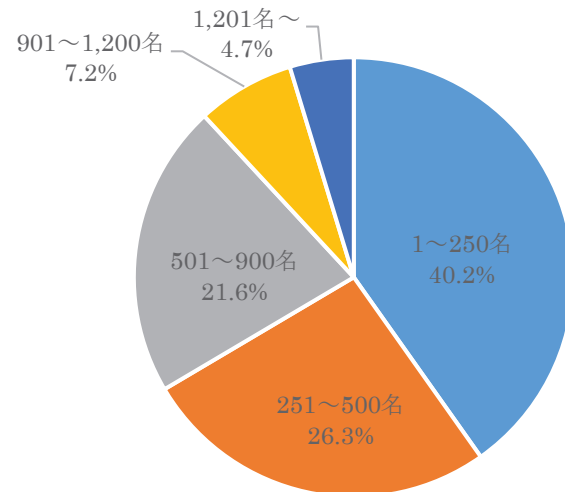
図 4 学校全体で組織的・継続的に取り組むための工夫



(参照:1. ① 質問 4)(N=468(※複数選択可))

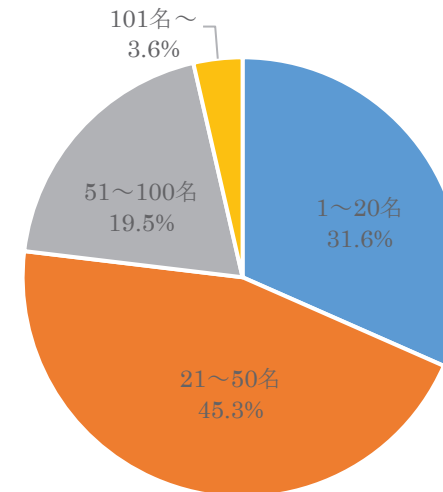
その他の回答：「ホールスクールアプローチを展開している」「グランドデザインに示されている」

図 5 学校規模(幼児児童生徒数)



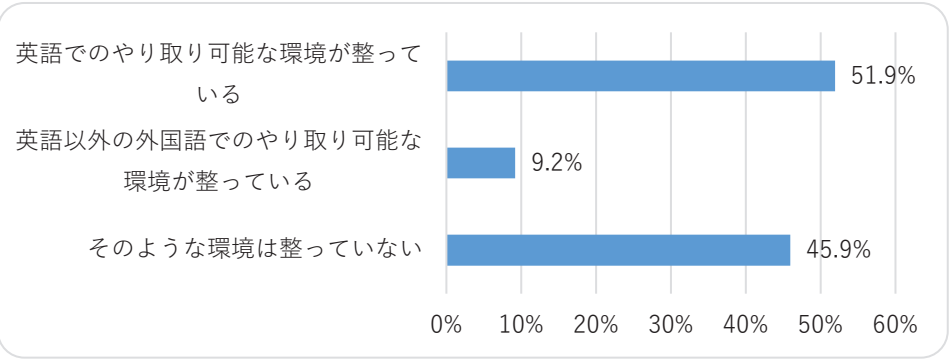
(参照:1. ① 質問 5)[N=468]

図 6 学校規模(教職員数)



(参照:1. ① 質問 6)[N=468]

図 7 外国語での情報発信、交流の環境整備状況



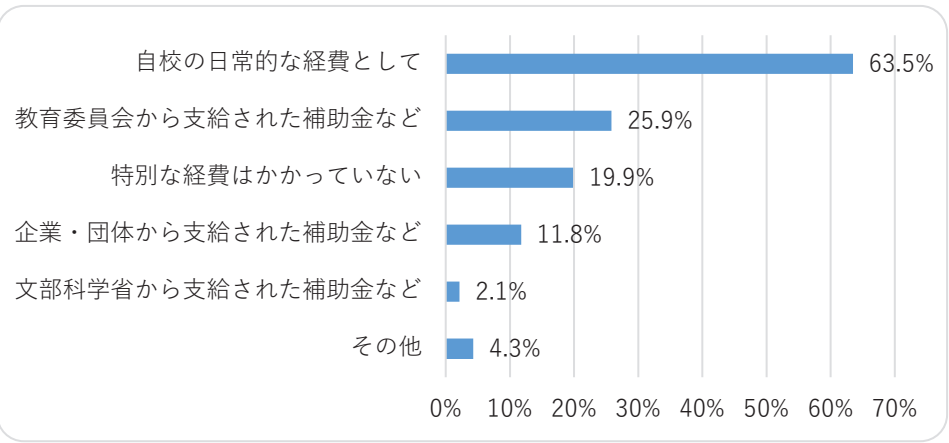
(参照:1. ① 質問 7)[N=468(※複数選択可)]

表 1 ユネスコスクールの活動にかかる費用助成団体

主な団体/組織	
国や地方公共団体運営事業の予算	教育に関する地域の協議会
教育関連の助成をする 公益財団法人や一般社団法人	企業
JA（農業協同組合）	大学
ロータリークラブ	各校の同窓会、振興会
地域のユネスコ協会	地域の助成団体
PTA	国立研究開発法人

(参照:1. ① 質問 9)[N=72]

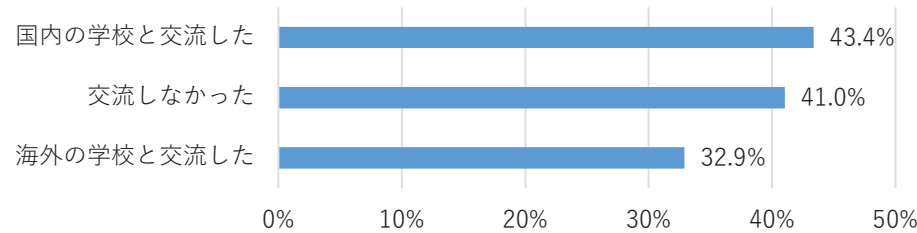
図 8 ユネスコスクールの活動にかかる費用の捻出方法



(参照:1. ① 質問 8)[N=468(※複数選択可)]

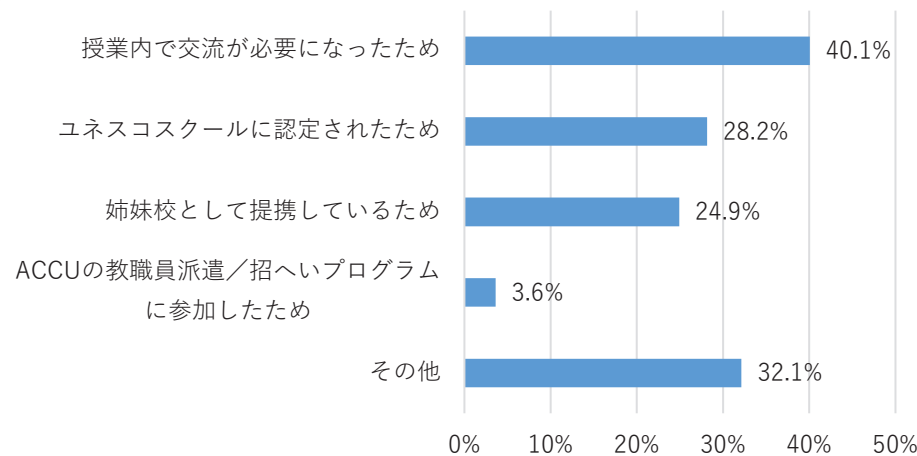
国内外の学校間交流について

図 9 国内外の学校との交流(ユネスコスクールに限定しない)



(参照: 1. ② 質問 1) [N=468 (※複数選択可)]

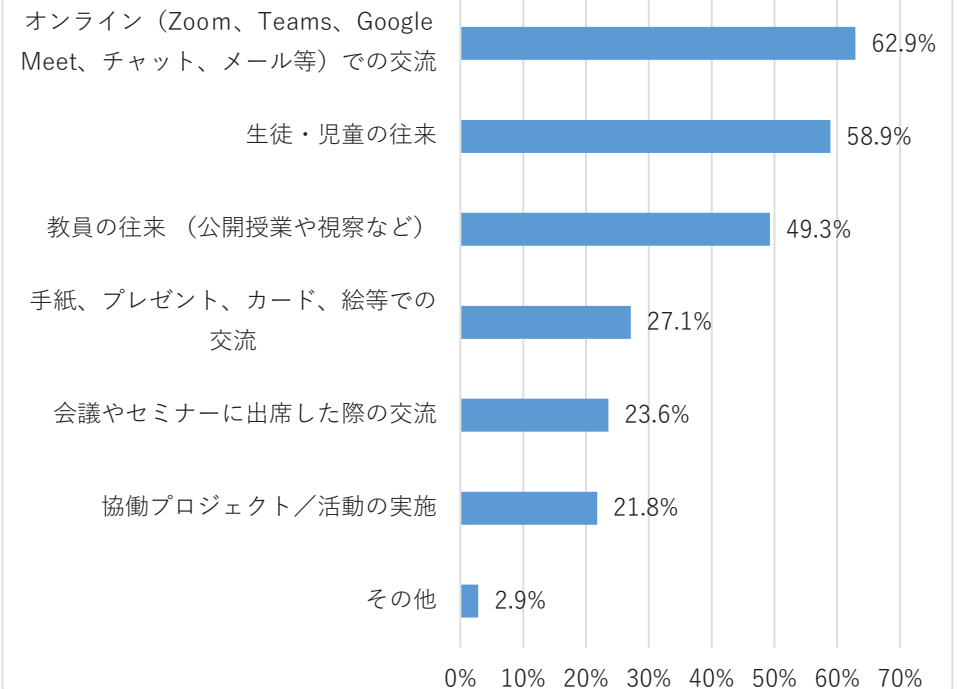
図 10 学校間交流を実施するようになったきっかけ



(参照: 1. ② 質問 2) [N=277 (※複数選択可)]

その他の主な回答:「SSH 事業/WWL 事業での探究活動における交流から」「教職員同士の紹介」「中学校区単位で日常的に交流をはかっているため」「コロナが 5 類に移行されたため」

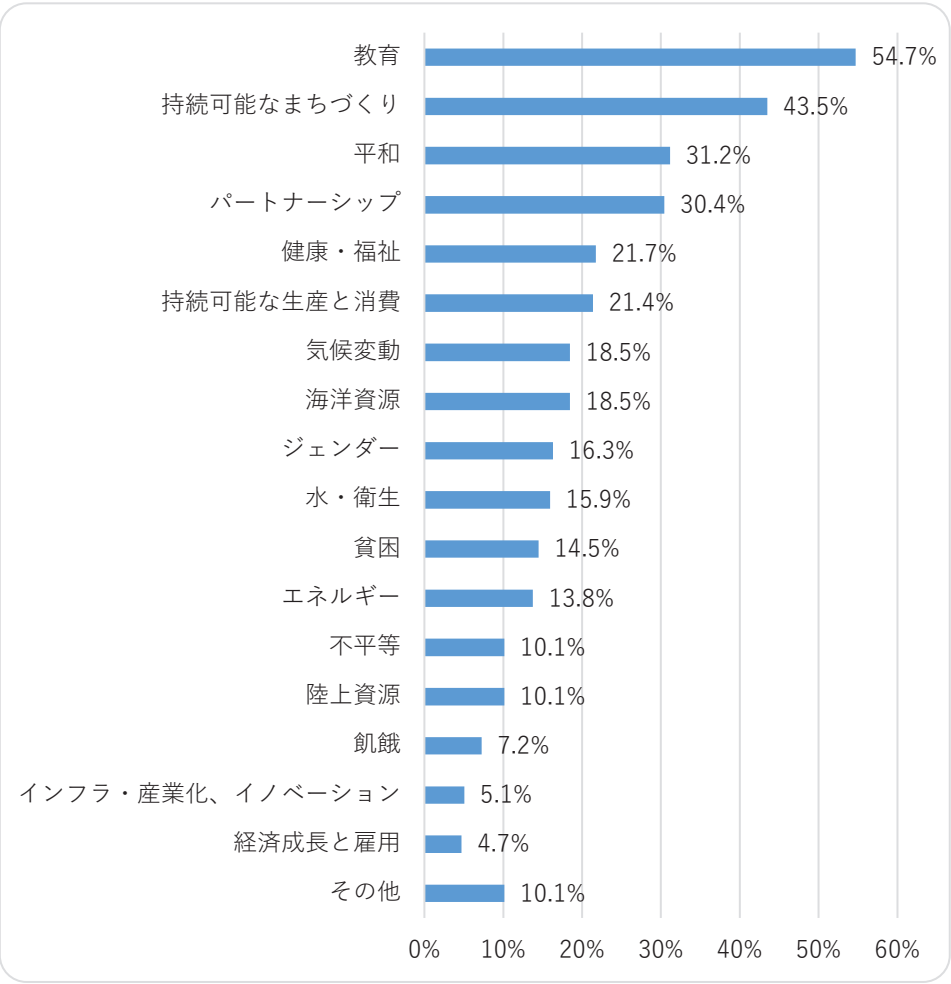
図 11 学校間交流で実施した交流活動方法



(参照: 1. ② 質問 3) [N=280 (※複数選択可)]

その他の主な回答:「姉妹校大学生の来校と、小学生への授業」「ユネスコフォーラム」「日本文化(習字、遊び)による交流」「海外の生徒が折った折り鶴を本校生徒が広島平和記念公園に奉納した」

図 12 学校間交流で実施した交流活動のテーマ



(参照:1. ② 質問 4)〔N=276(※複数選択可)〕

その他の主な回答：異文化交流、地域の環境、共生社会、地域防災、生徒会交流、グローバル・シティズンシップ教育（地球市民教育）、防災減災教育、世界遺産

表 2 学校間交流の主な成果

・ 自分たちの活動についてユネスコスクールの文脈で言葉にできるようになってきた
・ 他校との交流を通じて、互いの理解を深めることができた
・ 国際交流の中で、ユネスコの精神を浸透させることができた
・ 英語を使って積極的に交流する意識が養われた
・ 交流を通して多様な価値観に触れ、自己の考えを深めることができた

(参照:1. ② 質問 5)〔N=251〕

表 3 学校間交流の主な課題

・ 関わる時間が少ない、取りにくい、ため、「交流」している実感をもちにくい
・ 教師の異動により、交流方法などの引継ぎが不確実になる
・ 他自治体の学校との交流にはその都度申請する必要があり、担当者の負担が大きい
・ 子どもの交流の安全面や健康面、行き来にかかる費用面での配慮が必要
・ 費用と時間の調整

(参照:1. ② 質問 6)〔N=244〕

表 4 学校間交流に関する情報収集先

主な団体や方法	
国/都道府県/市町村教育委員会などの 行政機関	教育に関する地域の協議会
教育関連の助成をする 公益財団法人や一般社団法人	企業
ASPUivNet	姉妹校の連携
ロータリークラブ	教職員同士のつながり
地域のユネスコ協会	大学

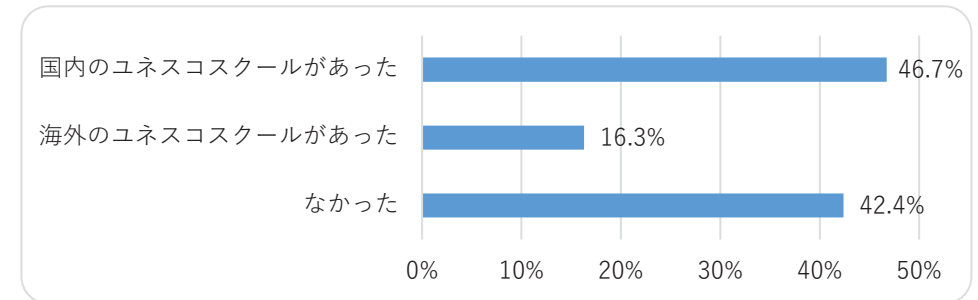
(参照:1. ② 質問 7)(N=216)

表 5 学校間交流に関する支援団体/ネットワーク

団体名	
国/都道府県/市町村教育委員会などの 行政機関	教育に関する地域の協議会
教育関連の助成をする 公益財団法人や一般社団法人	企業
ASPUivNet	ユネスコスクール地域ネットワーク
ロータリークラブ	NPO 法人
地域のユネスコ協会	大学

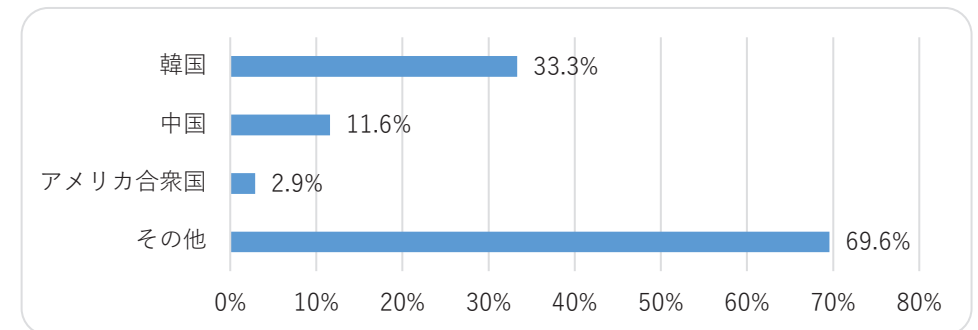
(参照:1. ② 質問 8)(N=145)

図 13 国内外のユネスコスクールとの交流



(参照:1. ② 質問 9)(N=276(※複数選択可))

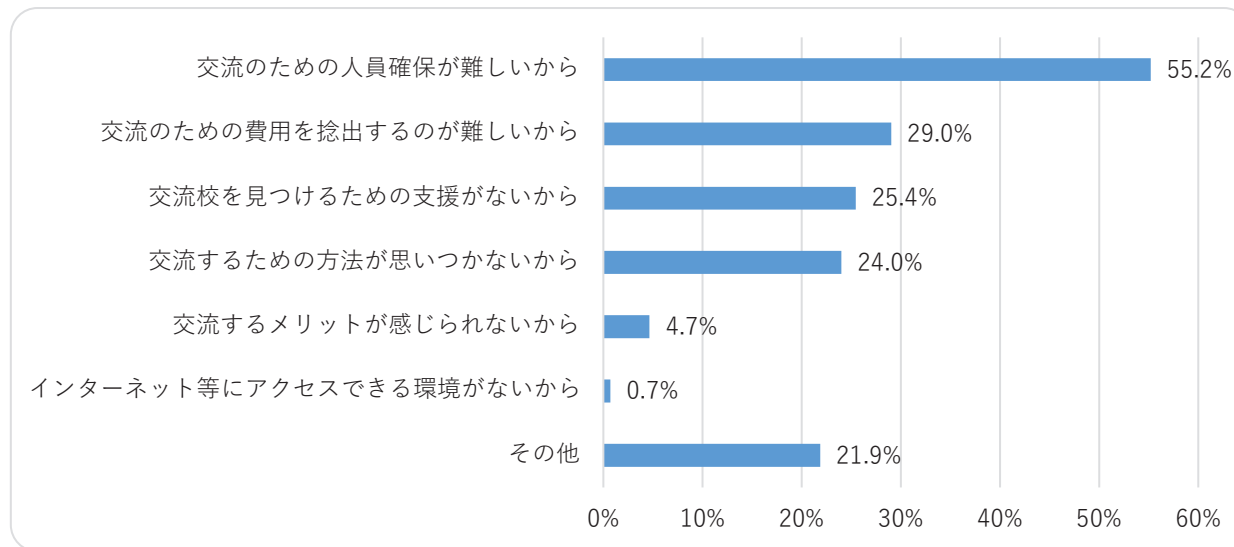
図 14 海外交流校の国、地域名



(参照:1. ② 質問 10)(N=69(※複数選択可))

その他の主な回答：マレーシア、台湾、インドネシア、オーストラリア、シンガポール、タイ

図 15 交流しなかった理由

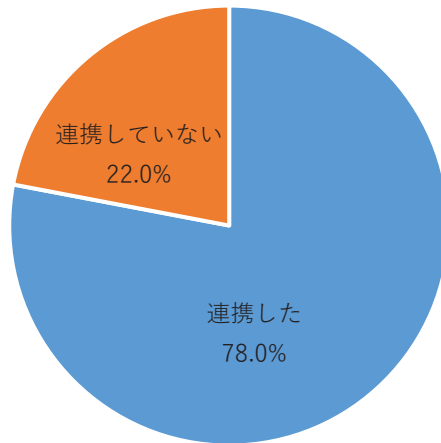


(参照:1. ② 質問 11)(N=279(※複数選択可))

その他の主な回答:「相手校との交流内容、時間の調整が難しい」「姉妹校との交流が充実している」「タイミングの合う相手校が見つからなかった」「児童生徒の実態として、まだ難しい」「自然災害により中止になった」

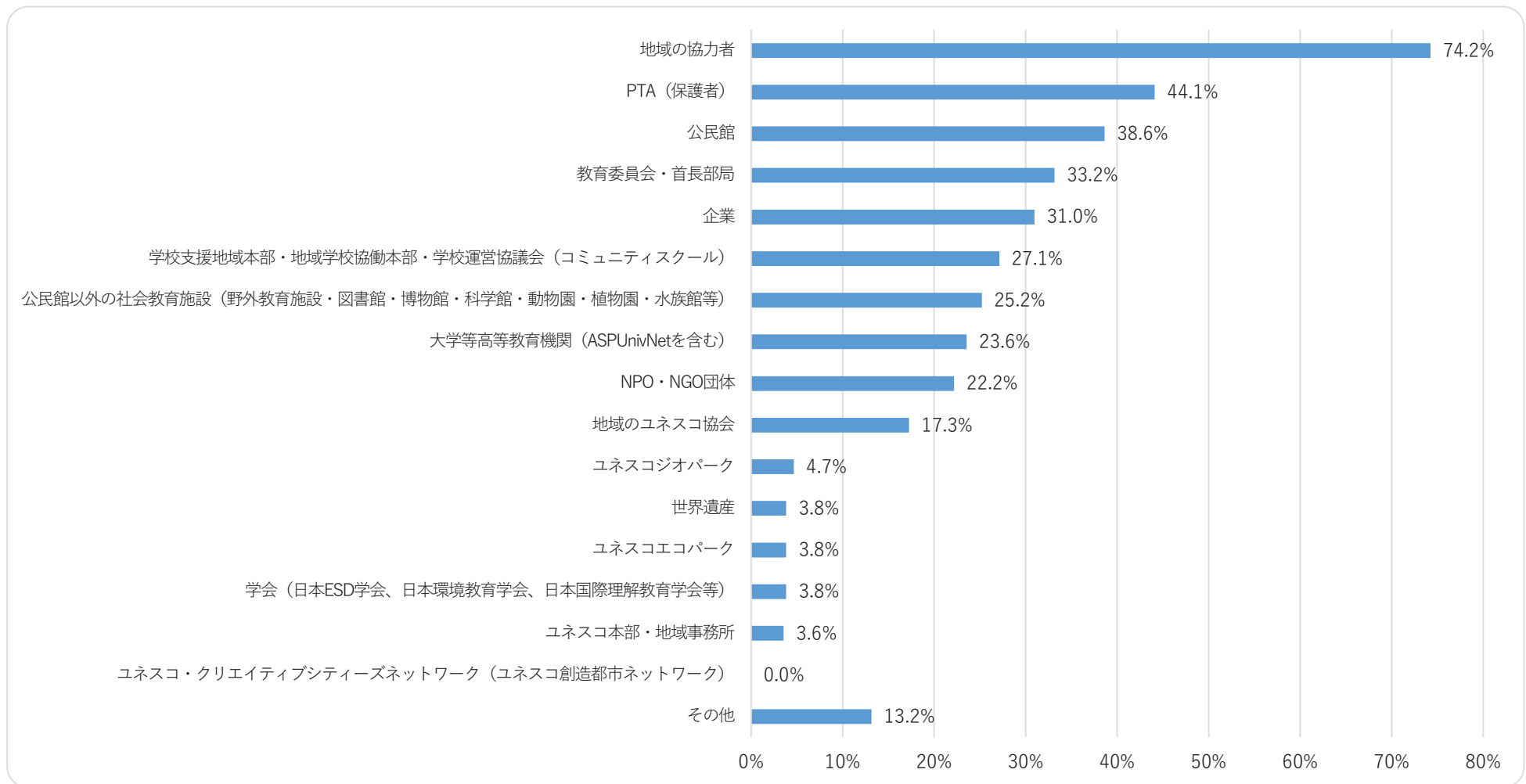
学校以外の団体との協働について

図 16 学校以外の団体との連携の有無



(参照:1. ③ 質問 1)[N=468]

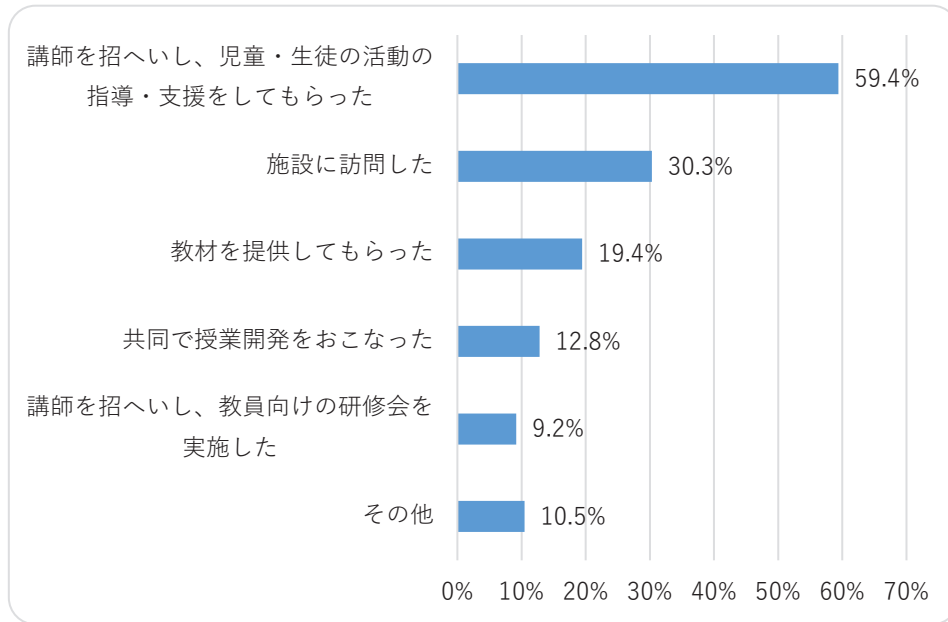
図 17 連携先の団体



(参照:1. ③ 質問 2)[N=365(※複数選択可)]

その他の主な回答: 地方公共団体、国の機関、地域の公的機関や施設、教育に関連する団体

図 18 学校以外の団体との連携内容



(参照:1. ③ 質問 3)[N=353(※複数選択可)]

その他の主な回答:「活動見直しのためのアドバイスをもらった」「SDGsに関する探究活動を1年を通して協働で実施」「地域貢献活動等」「世界遺産に関するフィールドワーク」

表 6 外部団体と交流することになった主なきっかけ

・ 地域とともにある学校を目指し、地域教材・人材を積極的に取り入れている
・ 地域のユネスコ協会からの紹介
・ 教育委員会の紹介で、様々な企業の出前授業を知った
・ 地域のユネスコスクールネットワークを構築したから
・ 防災教育を契機に大学教員と関わった

(参照:1. ③ 質問 4)[N=302]

表 7 外部団体と交流したことによる主な成果

・ 学校と保護者、地域との結びつきを強化できた
・ 外部団体の取組を知ることで、生徒の地域社会に対する視野が広がった
・ 専門的なアドバイスをいただき、学びが深まった
・ 教員以外の視点から社会について学ぶ機会となった
・ 誰かのために自分の力を発揮しようと動く生徒が増えてきた

(参照:1. ③ 質問 5)[N=306]

表 8 外部団体と交流したことによる主な課題

・ 先方との調整に携わる担当教員の負担増
・ 継続的な連携体制の構築
・ 学校の意図と外部団体の意図の擦り合わせ
・ 児童生徒の自主性や主体性を発揮した活動にすること
・ 必要経費の捻出

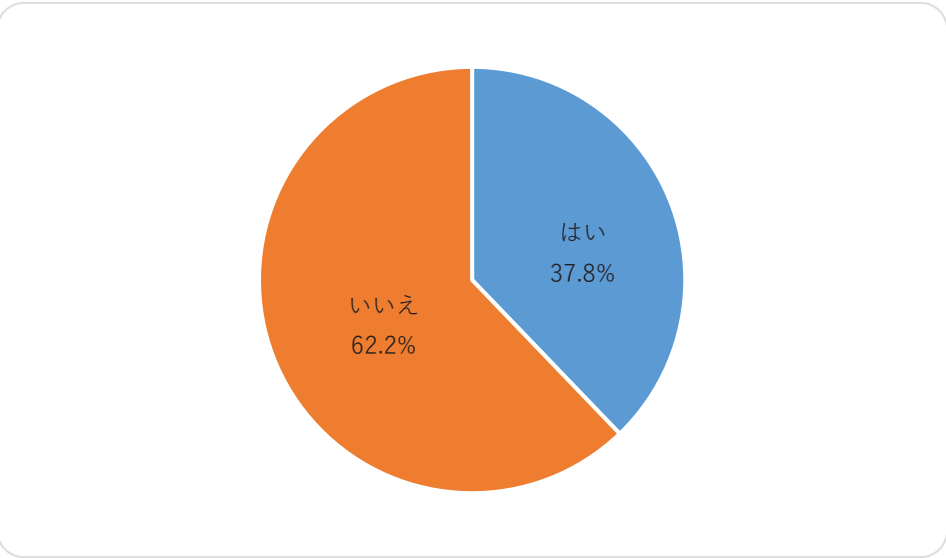
(参照:1. ③ 質問 6)[N=274]

表 9 研修会を主催していた主な団体

団体名	
国/都道府県/市長村教育委員会などの 行政機関	教育に関する地域の協議会
教育関連の助成をする 公益財団法人や一般社団法人	企業
地域のユネスコ協会	ASPUivNet,、大学機関
ユネスコスクール地域ネットワーク	各地の ESD コンソーシアム
NPO 法人	ユネスコ関連機関

(参照:1. ③ 質問 8)[N=162]

図 19 校外における ESD・ユネスコ活動に関する研修への参加の有無

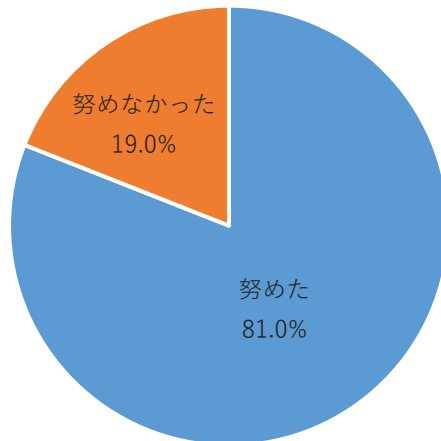


(参照:1. ③ 質問 7)[N=468]

■ **質問 9 の回答結果**につきましては、事務局にてイベント情報収集のための参考とさせていただきます。

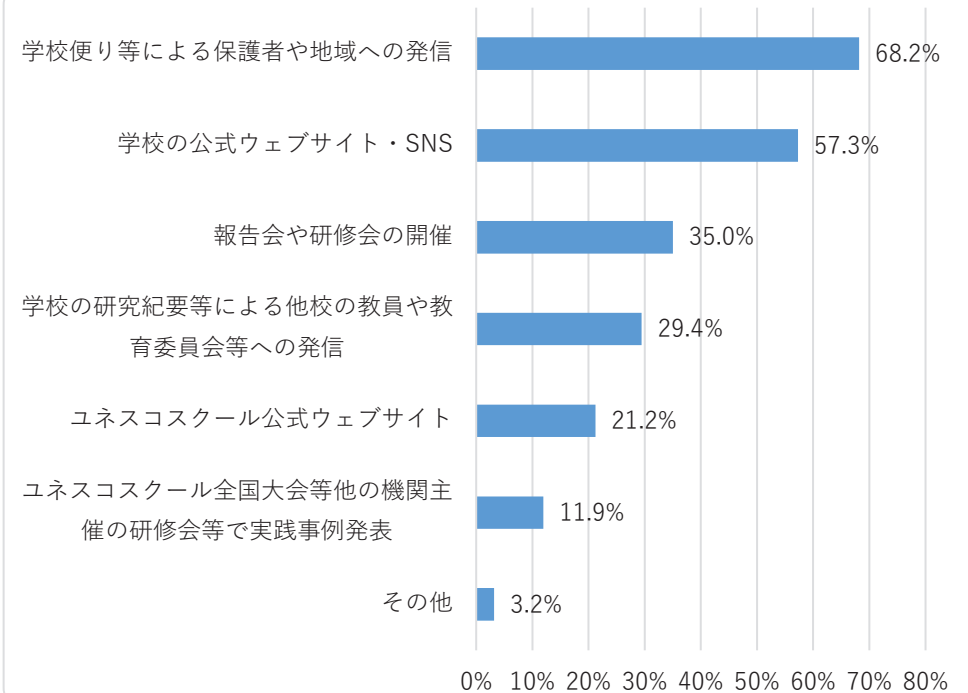
ESD の推進拠点としての活動成果の発信

図 20 ユネスコスクールに係る教育活動の実践等の発信、理念の普及



(参照:1. ④ 質問 1)[N=468]

図 21 成果の発信・普及方法



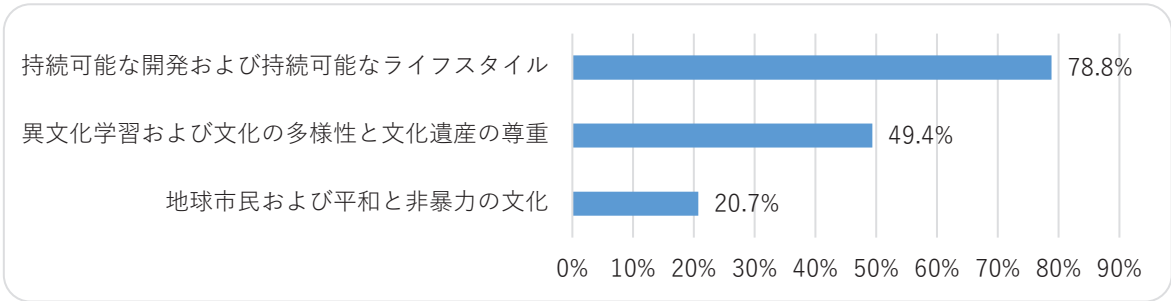
(参照:1. ④ 質問 2)[N=377(※複数選択可)]

その他の主な回答: 「地域の公民館や商業施設での成果物掲示」「学会発表、大学での発表」「学校内でのポスター掲示」「読売新聞オンラインへの掲載」「SDGs 未来創造フォーラムへの出展・参加」「職員を対象に『ゆねすこだより』を発行し、啓蒙、情報共有を図った」

ユネスコスクールとしての活動の成果

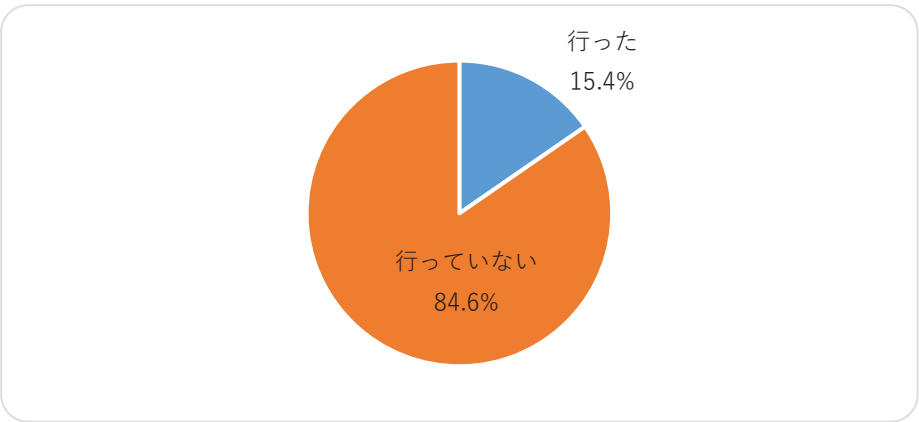
ユネスコスクールに求められる活動

図 22 ユネスコスクールが重点的に取り組む 3 つの分野のうち、特に活動成果のあるもの



(参照:2. ① 質問1)[N=468(複数選択可)]

図 23 国際デーを取り上げた学校行事



(参照:2. ① 質問 2)[N=468]

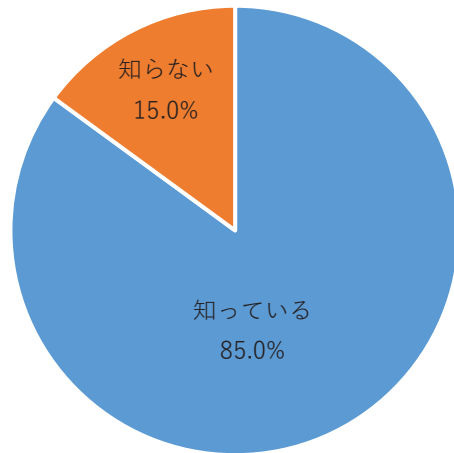
表 10 学校行事で取り上げた国際デー

主な国際デー	
人権デー(12/10)	国際平和デー(9/21)
国際障害者デー(12/3)	国際防災デー(10/13)
世界環境デー(6/5)	世界難民の日(6/20)
国際女性デー(3/8)	教育の国際デー(1/24)
世界津波の日(11/5)	ネットいじめを含む、学校での暴力といじめに反対する国際デー(11月の第1木曜日)

(参照:2. ① 質問 3)[N=76]

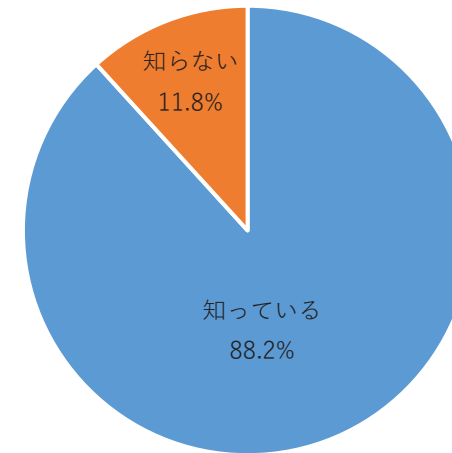
ESD と SDGs の関係に関する認知度

図 24 「ESD:SDGs 達成に向けて(ESD for 2030)」の認知度



(参照:2. ② 質問 1)[N=468]

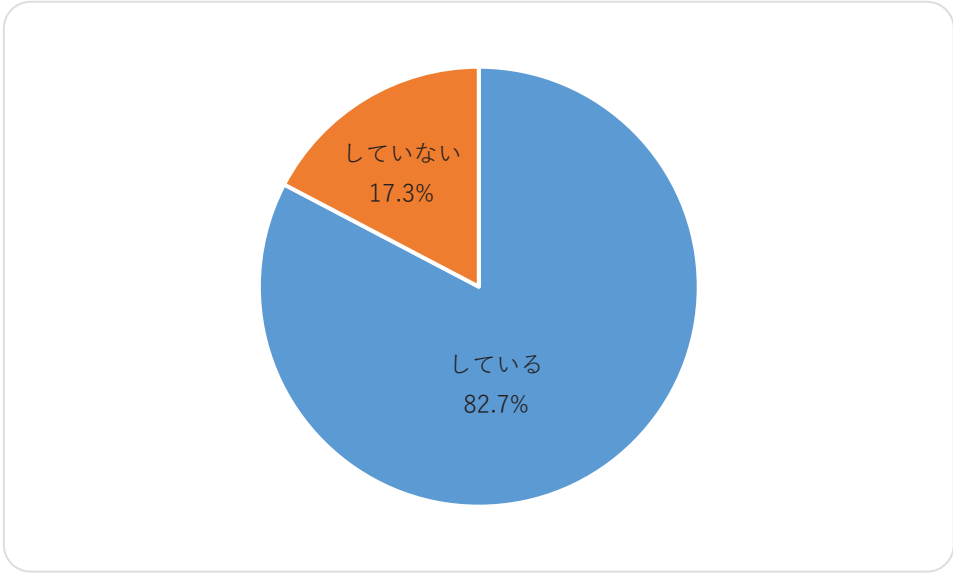
図 25 SDGs 目標 4(教育)ターゲット 4.7 の認知度



(参照:2. ② 質問 2)[N=468]

ユネスコスクールとしての活動による変化

図 26 ユネスコスクールにおける教育活動を通じた育みたい資質・能力の明確化



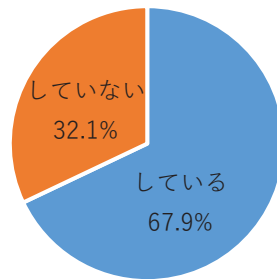
(参照:2. ③ 質問 1(1))[N=468]

表 11 ユネスコスクール活動を通して身についた主な資質・能力

主な資質・能力	
違いを認め、自分も他人も大切にする視点	地域の人や産業への愛着心
社会課題を自分事として捉える姿勢	環境に対する豊かな感受性や意識
人権・道徳意識	協働する力
批判的に考える力	話し合いをして計画を立てる力
伝統を守っていきたいと思う意識	多様性を尊重する意識
防災についての知識理解と実践的な態度	地球市民的な意識
ESD/SDGs 諸課題に対する当事者意識	自発的な行動力・発信力
奉仕活動への積極的参加	自ら立てた問いを粘り強く探究する力
実社会への関心	プレゼンテーション等発表の技能
グローバルリーダーとしての「使命感」「共感力」「問題解決への想像力」	コミュニケーションを行う力、つながりを尊重する態度
花を大切に慈しむ心情	社会人として必要なルールやマナー
生物多様性への理解	ボランティア精神
探究心	障害のある方に対する理解
地球規模の問題(飢餓や紛争等)への意識	持続可能な社会に向けて自ら考える姿勢
世界と自分達の生活を結び付ける視点	世界に飛び立とうとする意欲
対話力	情報収集力
国際情勢への興味関心	人と豊かに関わる力

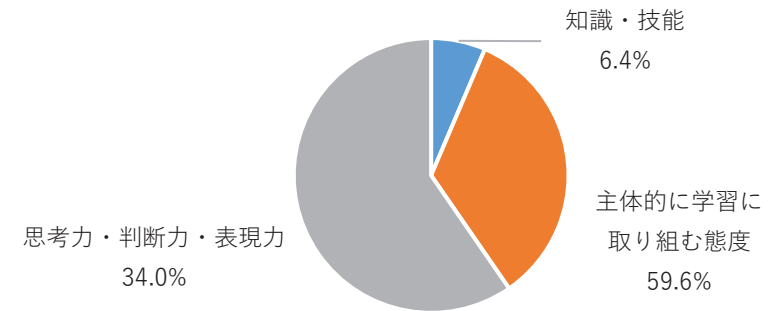
(参照:2. ③ 質問 1(2))[N=292]

図 27 ユネスコスクールとして身に付いた資質・能力を捉えるための評価



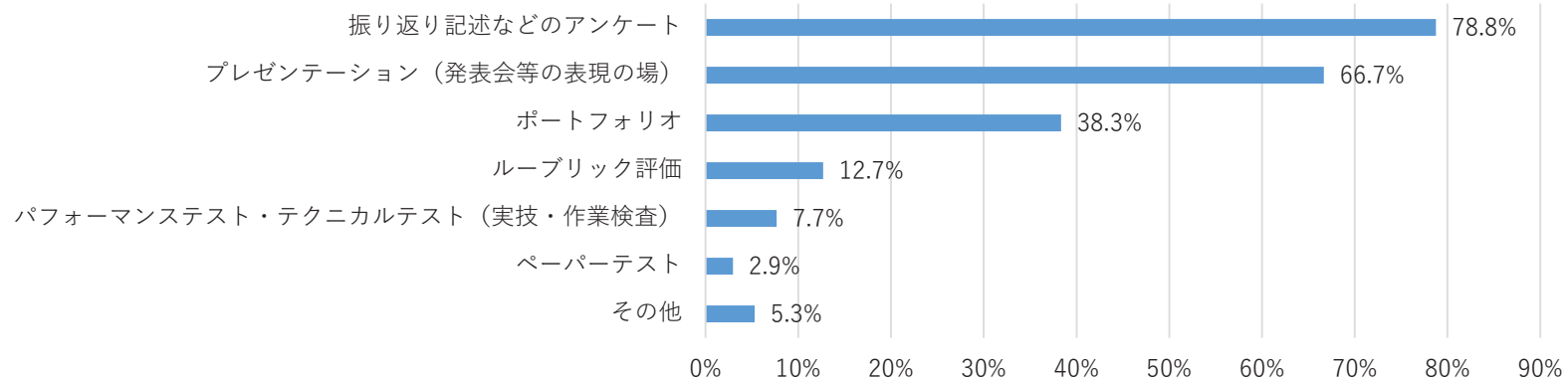
(参照:2. ③ 質問 1(3))[N=468]

図 29 最も変化の見られた「資質・能力の三つの柱」



(参照:2. ③ 質問 1(5))[N=468]

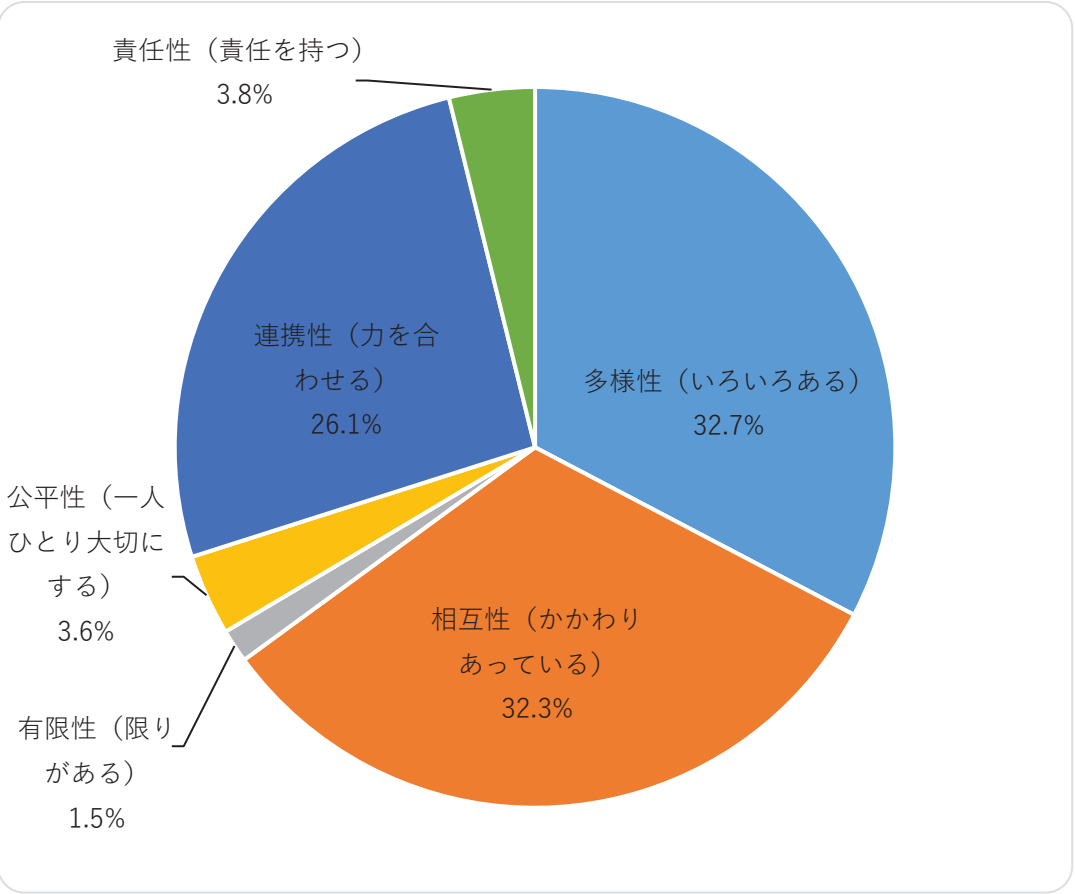
図 28 ユネスコスクールにおける教育活動を評価するための評価方法



(参照:2. ③ 質問 1(4)[N=339(※複数選択可)])

その他の主な回答：「日頃の授業」「新聞にまとめるなどして学習したことを広めている」「非認知能力を数値化『Ai GROW』の受験」

図 30 最も変化の見られた持続可能な社会づくりを構成する 6 つの視点



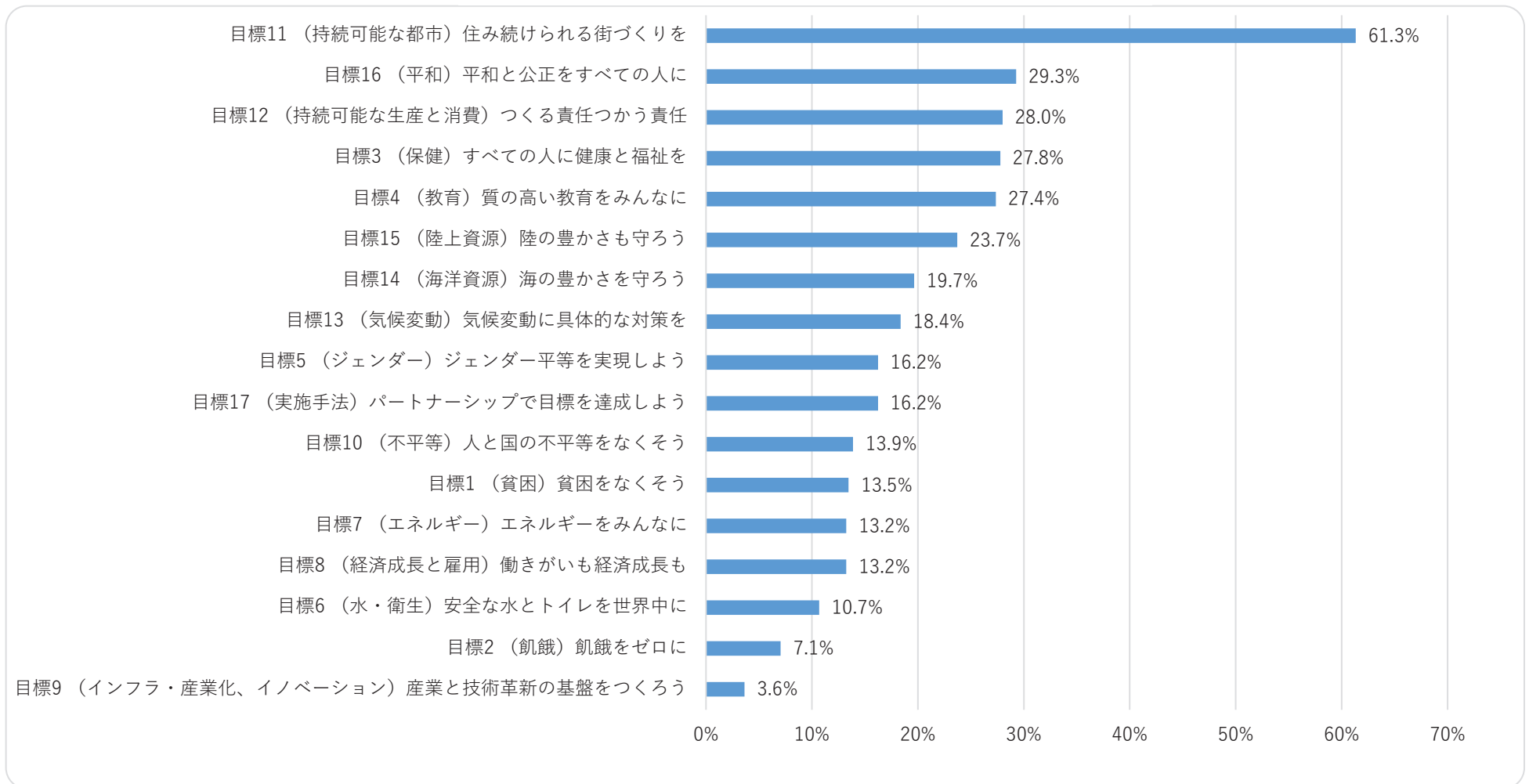
(参照:2. ③ 質問1(6))[N=468]

表 12 児童生徒の変化を促した主なきっかけ

・ 総合的な学習や探究の時間での体験学習を通じた学び
・ 地域とのつながりがある教育活動をおこなったこと
・ 発表会など、成果を表現する機会を設けたこと
・ 外部からの講師招へい
・ ユネスコスクール交流会
・ 児童生徒主体の学習活動
・ ICT 端末を効果的に活用した学び

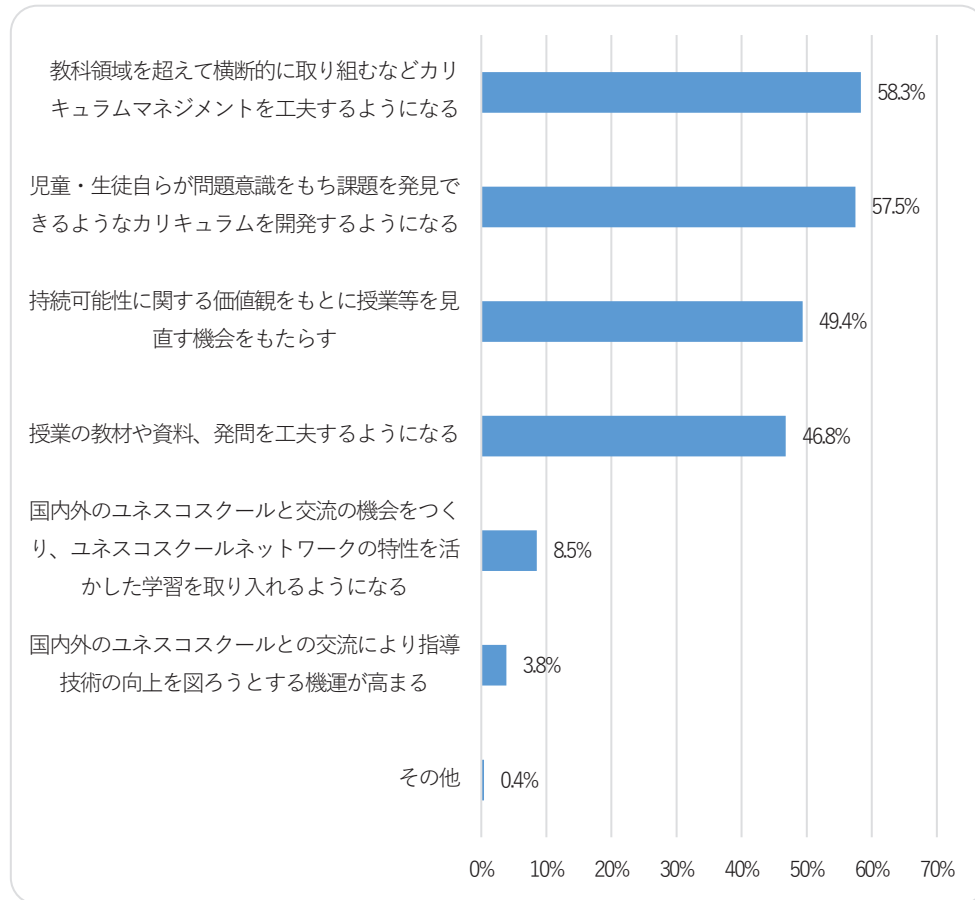
(参照:2. ③ 質問 2)[N=266]

図 31 ユネスコスクールの教育活動で取り上げた SDGs17 の目標



(参照:2. ③ 質問 3)[N=468(※上位3つまでを選択)]

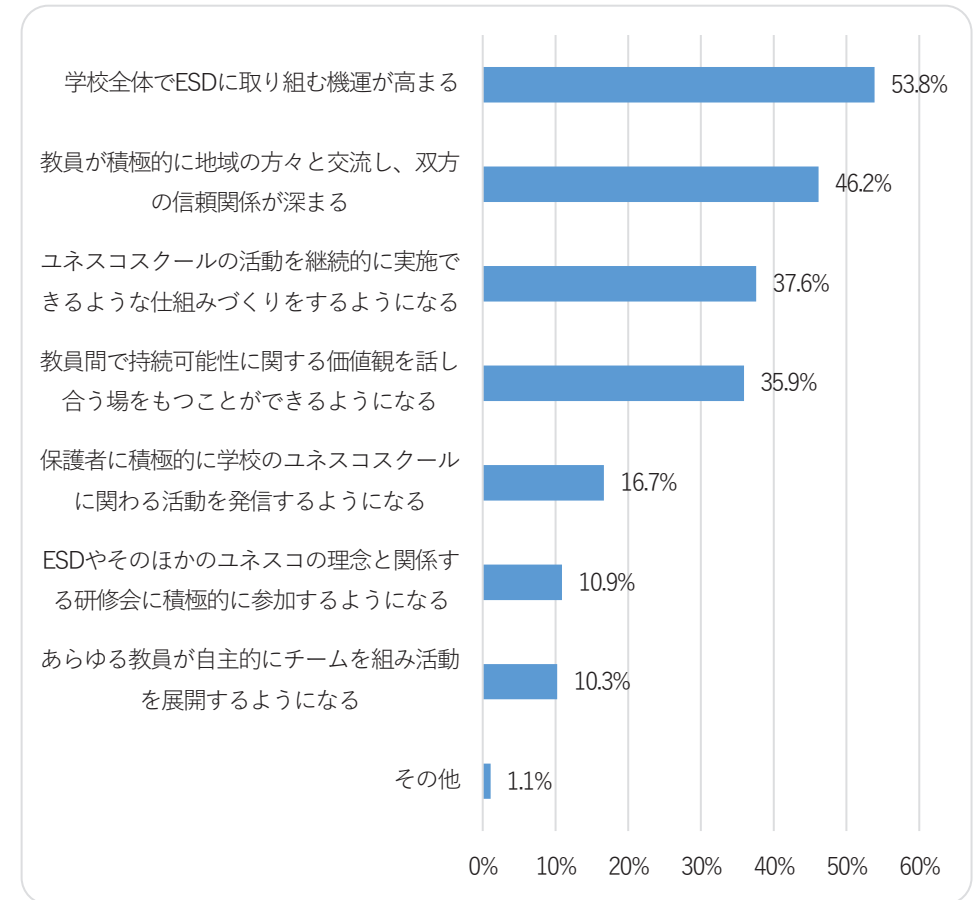
図 32 ユネスコスクールの教育活動による教員のカリキュラム・教授法の変化



(参照:2. ③ 質問 4(1))(N=468(※複数選択可))

その他の主な回答:「特に評価できる項目はないように感じる」「現状ではわからない」

図 33 ユネスコスクールの教育活動による教員の学校運営の変化



(参照:2. ③ 質問 4(2))(N=468(※複数選択可))

その他の主な回答:「様々な取組に対する生徒の育成目標が明確になり、教員がその目標に向かって指導できる」「地方大会参加や海外交流校との交流により、ユネスコスクールとしての価値を教員が認識する」

表 13 教職員の変化を促した主なきっかけ

・ 地域を巻き込んだ学習活動／地域交流
・ 総合的な学習の時間の活用
・ 学習発表の機会を設けたこと
・ 校内研修や学校区内教員の合同研修
・ 国内／国外の学校間交流
・ ESD に関する研修の受講および授業実践
・ 大学や企業、外部団体との連携
・ ユネスコスクール地方大会への参加
・ ユネスコスクール定期レビュー

(参照:2. ③ 質問 5) [N=203]

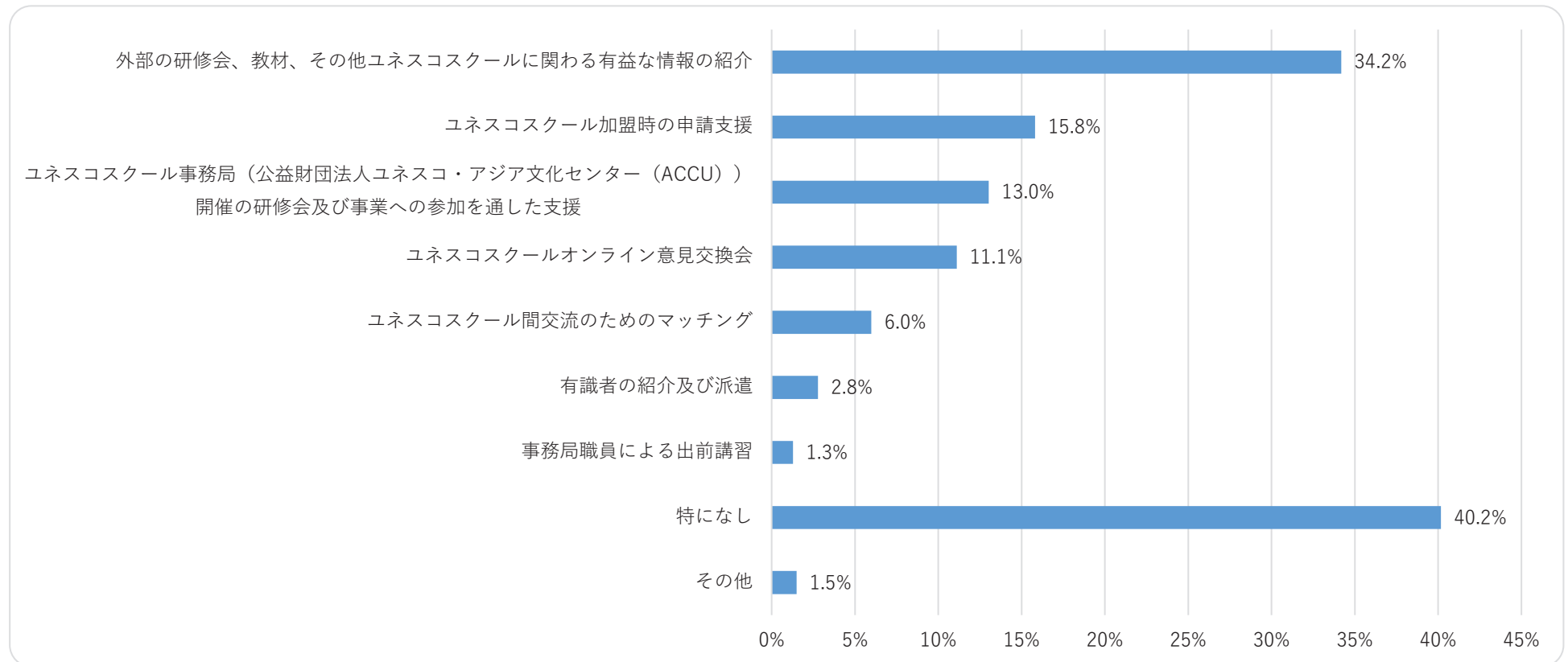
表 14 教職員の活動意欲が向上した主な取り組み

・ 外部講師の研修会実施
・ 外部への活動発表の機会を設けること
・ 地域人材と協働した実践づくり
・ 教員間の交流(校内、地域内、海外)
・ 校内研究授業, 事後研究会, 研究発表会
・ 小中高で連携した教育研究
・ ユネスコスクール地方大会への参加
・ 企業が主催するプロジェクトへの参加
・ 児童が文化発表等の場で自己肯定感を高めていく様子をみたこと

(参照:2. ③ 質問 6) [N=150]

ユネスコスクール支援の利用状況

図 34 ユネスコスクール事務局の利用状況



（参照：3. 質問1）〔N=468（※複数選択可）〕

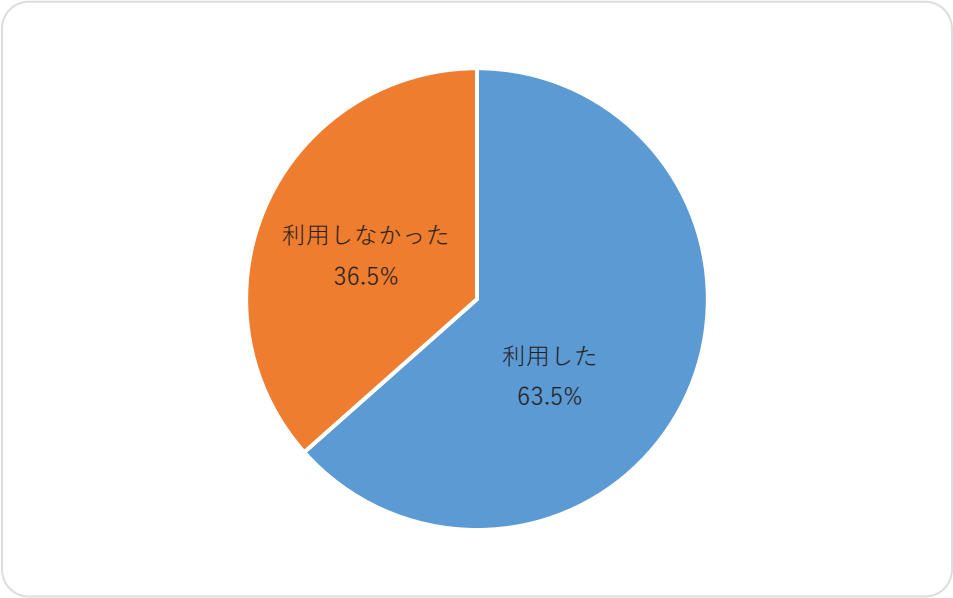
その他の主な回答：「定期レビュー研修会での指導・助言」「提出書類に関する評価とフィードバック」「周年行事において、保護者／子ども向けに講演をいただいた」

表 15 ユネスコスクール事務局に求める支援内容

・ 活動費用に対する支援
・ 講師派遣、出前授業や研修会の開催
・ 外部の研修会や教材等、各種の情報提供
・ 実践例や映像資料の提供
・ 大学や専門機関とのコーディネート
・ ユネスコスクール間交流のきっかけ作り、マッチング

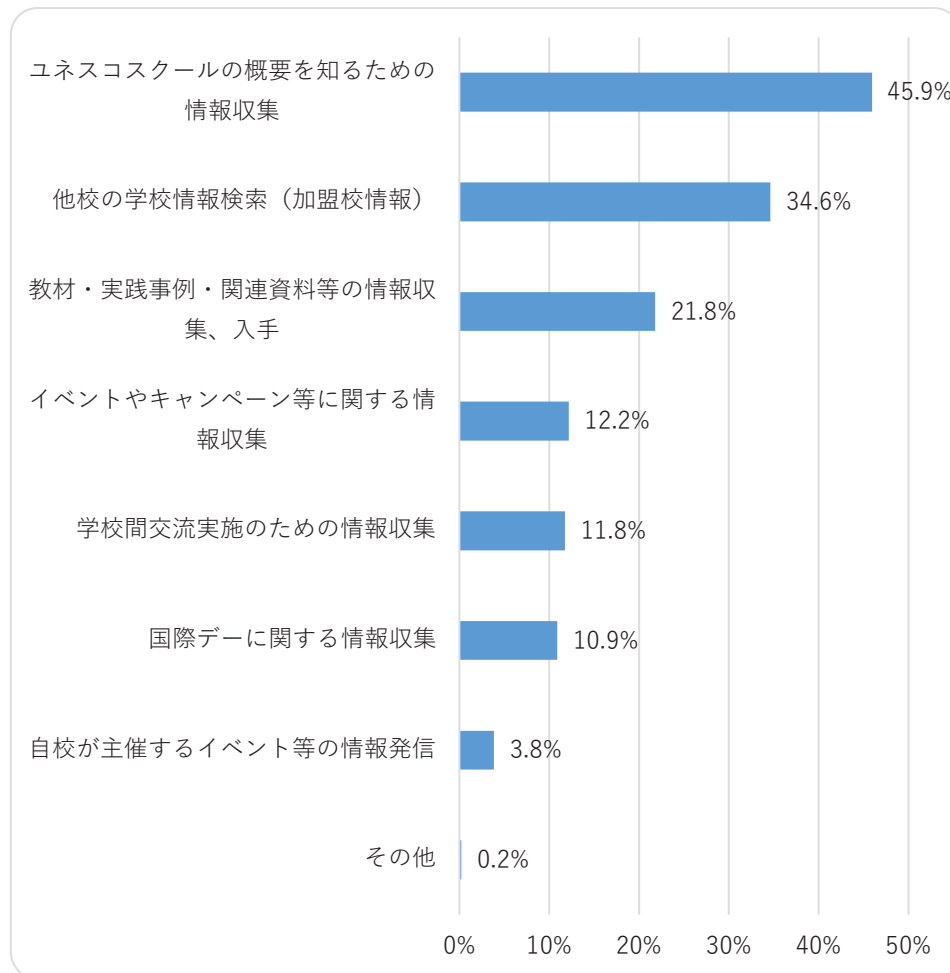
(参照:3. 質問 2)[N=101]

図 35 ユネスコスクール公式ウェブサイトの利用状況



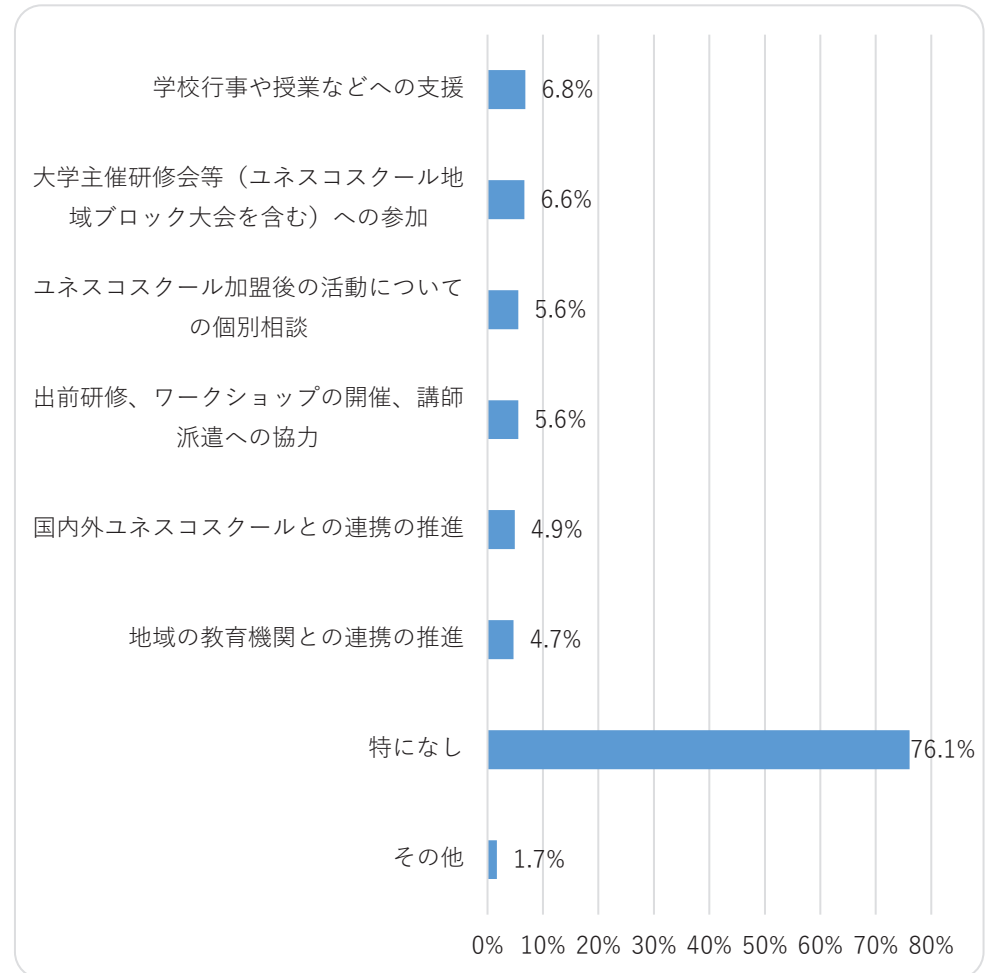
(参照:3. 質問 3)[N=468]

図 36 ユネスコスクール公式ウェブサイト機能の利用状況



（参照：3. 質問 4）[N=301（※複数選択可）]

図 37 ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet)からの協力・支援内容



（参照：3. 質問 5）[N=468（※複数選択可）]

表 16 ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet)からのその他の支援

大学の敷地内にあるため、教授・学生を含め様々な支援を受けている。また、子どもキャンパスプロジェクトや部活動による SDGs 活動への支援も受けている。留学生の方との交流会なども実施している。
ASPUnivNet の共同研究の関係でインタビュー調査を受けた。
「ユネスコスクール・SDGs/ESD 交流会」「ユネスコスクール・ESD子どもサミット」における講師助言
連携としての大学生、大学院生による学校訪問
自校の取組で完結してしまっている部分があり、機会がなかった。

(参照:3. 質問 6)〔N=5〕

制作

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-32-7F 出版クラブビル

E-mail: webmaster@accu.or.jp URL: <https://www.accu.or.jp>

ユネスコスクール公式ウェブサイト: <https://www.unesco-school.mext.go.jp/>

令和5(2023)年度 ユネスコ未来共創プラットフォーム事業の一環として文部科学省の委託を受けて作成しております。